

## パネルディスカッション

### 「大腸カプセル内視鏡の普及に向けた工夫」

司会 勝木 伸一（小樽掖済会病院）

大宮 直木（藤田医科大学消化器内科学Ⅰ講座）

#### 司会の言葉

我が国の大腸がんの罹患数は現在がんの中で最多であるが、大腸がん検診の普及率はまだまだ十分でなく、その対策は喫緊の課題である。その点、苦痛のない経口内服可能なカプセル内視鏡は大腸がん検診受診率向上のきっかけとなりうる。また、潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の侵襲のないモニタリングツールとして有用性が期待される。大腸カプセル内視鏡は2014年1月に全大腸内視検査失敗例や器質的異常により実施困難例に限り保険適用された。また、2020年4月には大腸過長症や高血圧・高度肥満・心肺機能低下患者にも保険適用が拡大された。ただ、大腸カプセル内視鏡の診断能や安全性、受容性は今まで十分に検証されていない。また、日本カプセル内視鏡学会推奨レジメンによる前処置・ブースターを用いても全大腸観察率は十分とはいえない。本パネルディスカッションではさらなる大腸カプセル内視鏡の普及に向けた各施設の取り組みについてご発表いただき、今後の展望について討論したい。